

第2回 スポーツ医・科学拠点整備にかかる有識者懇談会
＜参考資料＞

参考1 第1回スポーツ医・科学拠点整備に向けた有識者懇談会 議事概要 …P. 1

参考2 令和7年度 第2回 ネット・モニターアンケート結果(概要) …P. 4

参考3 他都市のスポーツ医・科学センターにおける主な取り組み …P. 6

第1回 スポーツ医・科学拠点整備に向けた有識者懇談会 議事概要

日時：令和7年6月19日(木)午前9時30分～午前11時30分

会場：市役所西庁舎12階 西12B会議室

1 出席者

【委員】(五十音順・敬称略)

所属・役職等	氏名
中京大学スポーツ科学部 准教授	倉持 梨恵子
日本福祉大学 大学院スポーツ科学研究科 健康科学部リハビリテーション学科 教授	小林 寛和
中部大学生命健康科学研究科 保健医療学専攻 准教授	松村 亜矢子
名古屋市立大学整形外科 主任教授	村上 英樹
名古屋市立大学 運動器スポーツ先進医学寄附講座 講師	吉田 雅人

【行政関係者】

所属・役職等		氏名
スポーツ市民局	スポーツ推進部 部長	石原 治
	スポーツ推進部 担当課長	沓名 大介
	スポーツ推進部スポーツ振興課 課長補佐	増田 大樹

2 会議次第

- 1 開会
- 2 スポーツ推進部長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 座長の互選
- 5 スポーツ医・科学拠点整備に向けた有識者懇談会について
- 6 議題
 - (1) 現状と課題について
 - ①取り組みの対象者
 - ②取り組みの内容
 - ③指導者
 - (2) スポーツ医・科学にかかる取り組みの柱(素案)及び取り組み例
 - (3) スポーツ医・科学にかかる本市の取り組みの主な対象(素案)
- 7 閉会

3 議事概要

(1) 現状と課題について

- 部活動の民間移行ではスポーツ障害の予防面のほか、教育面のケアが必要であり、指導者はライセンス制のように年1, 2回講習を受けるなどの仕組みが必要。
- 運動・スポーツへの意識は様々であり、既往症の状況も含めて個人個人に合わせたサポートが必要。
- アスリート、高齢者、子ども、障害者などが一緒になって利用しお互い刺激し合える施設になるといい。
- トップアスリートが一般の方と同じ場を使用することは難しいかもしれないが、アスリートたちが施設を使用して感謝の気持ちを抱けば社会貢献の気持ちが醸成され次世代育成のための還元の流れができる。また、トップアスリートが地元に戻ってきたときに市民と一緒にスポーツできる場があるのは楽しいし実施率も上がるのではないかな。
- パラアスリートや障害者など多様な対象に対応できるイメージが入っていると分かりやすい。
- 様々な対象者が利用して、子どもはけが予防、選手はパフォーマンスアップ、高齢者は10歳若返るような施設であればいいことはない。お互い刺激を受け合うような混在スペースは非常に重要。
- 市内には色んなところに体育館があるので、うまくランチとして、ネットワークとしてノウハウを共有していけるのではないかな。
- スポーツ基本法の改正で、部活動、高齢者のスポーツ、パラスポーツ、eスポーツも取り込まれているのでそこも視野に入れて検討してはどうか。
- サポートをするための財源は大きな課題。何をどの程度どの規模でやるかの検討や民間企業との連携は重要。

(2) スポーツ医科学にかかる取り組みの柱及び取り組み例

- 栄養面、女性のサポート、精神面など色んな指導を受けたりしながら効果が上がるので、サポート人材もセットにしながらケアができるか考えることができれば、名古屋独自のものになる。
- 人材の確保は大変で一番覚悟して取り組むべき。サポート人材に関する組織ができれば、各大学で育てていただいた学生の受け皿にもなり、必要な地域へ派遣できる仕組みもできるかもしれないので大学との連携も強くなる。
- アスリートサポートにおいて、各競技団体との連携は県市で統一されていないので調整が必要。
- 市外の大学との連携という意味では、広く愛知県を標的にしていった方が人材の受入れがしやすくなるのではないかな。
- 指導者の育成において県競技団体との連携を考えるのであれば県スポーツ協会との結びつきは初めから念頭に入れた方がよい。

- ストレッチ指導など紙媒体でのサポートは分かりにくいので、アプリや動画によるアプローチがよい。
- 医療機能を置くかどうかはまだ決まっていないので、この懇談会で議論したい。
- トレーナーとしては、医療の担保があったうえでトレーナーができる範囲が明確になった方がその場で連携をとりやすい。他の医療機関で指導があったうえでの対応もできるが、医療とダイレクトに連携した方がよい。
- 市の誇りにできるようなオリジナリティある施設ができればよい。

（３）スポーツ医・科学にかかる本市の取り組みの主な対象（素案）

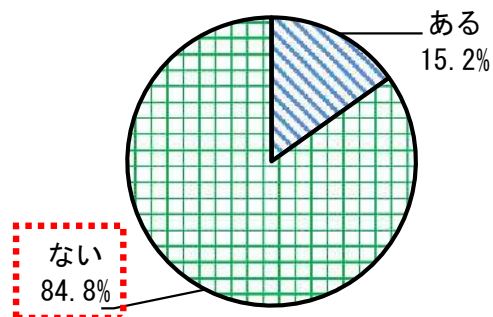
- 県とは異なり市は幅広い方をターゲットにするというように違いを打ち出し、県からの協力を得られやすいような特徴を出すのがいいのではないかな。
- 30～40代の運動実施率向上は長年の課題なので、働きながら、また、家庭でもできるようなサポート環境も必要。

令和7年度 第2回 ネット・モニターアンケート結果(概要)①

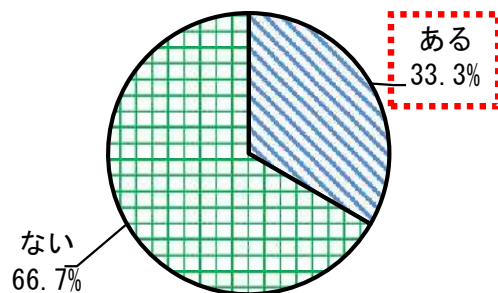
参考2

- ・調査期間：令和7年7月11日(金曜日)から令和7年7月22日(火曜日)
- ・調査対象：市内に居住する18歳以上の市民500人
- ・回収率：対象モニター数500人に対して有効回収数429人（有効回収率85.8%）

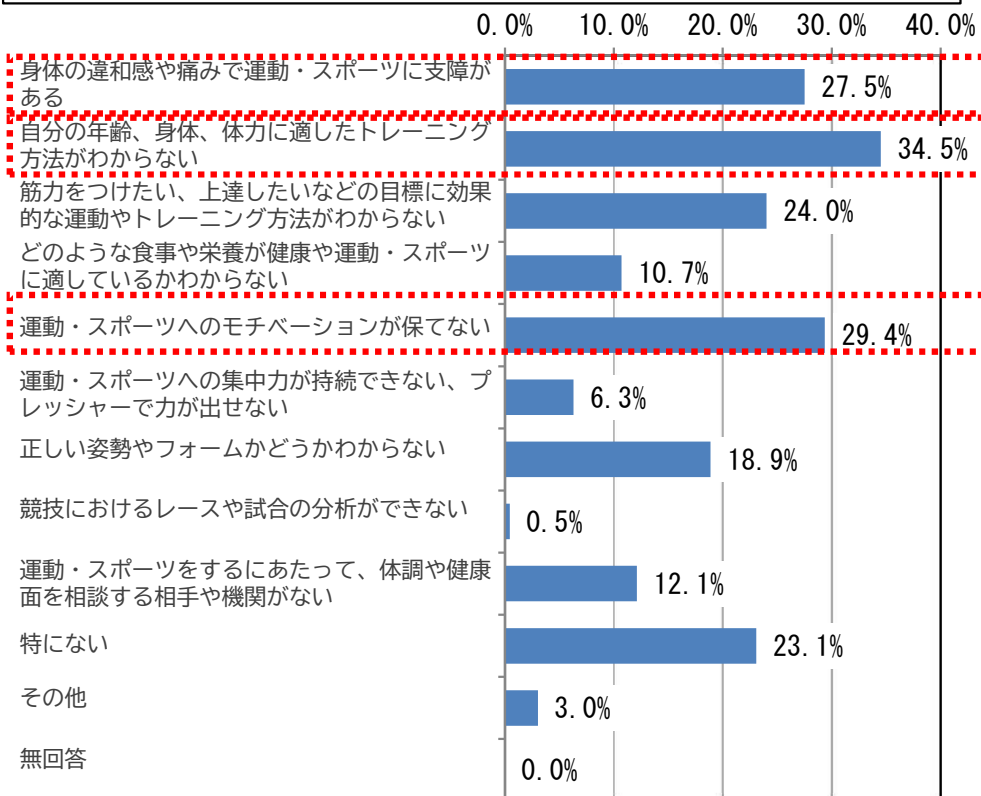
Q6. あなたは、過去1年間に、体力測定（握力や持久力、瞬発力など）を受けたことはありますか。



Q7. あなたはこれまで、運動・スポーツにおけるけがをきっかけに運動・スポーツが続けられなくなったり、実施頻度が減ったりしたことはありますか。



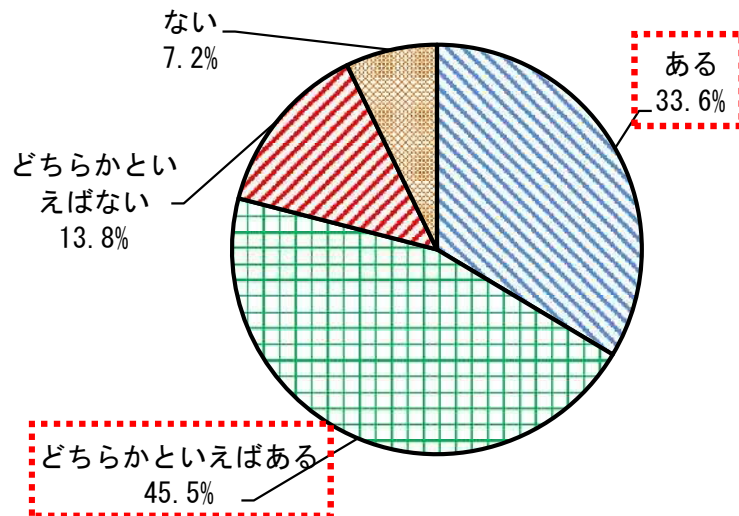
Q9. あなたがこれまで、運動・スポーツをするにあたり、健康面や運動面で困ったことは何ですか。（選択はいくつでも）



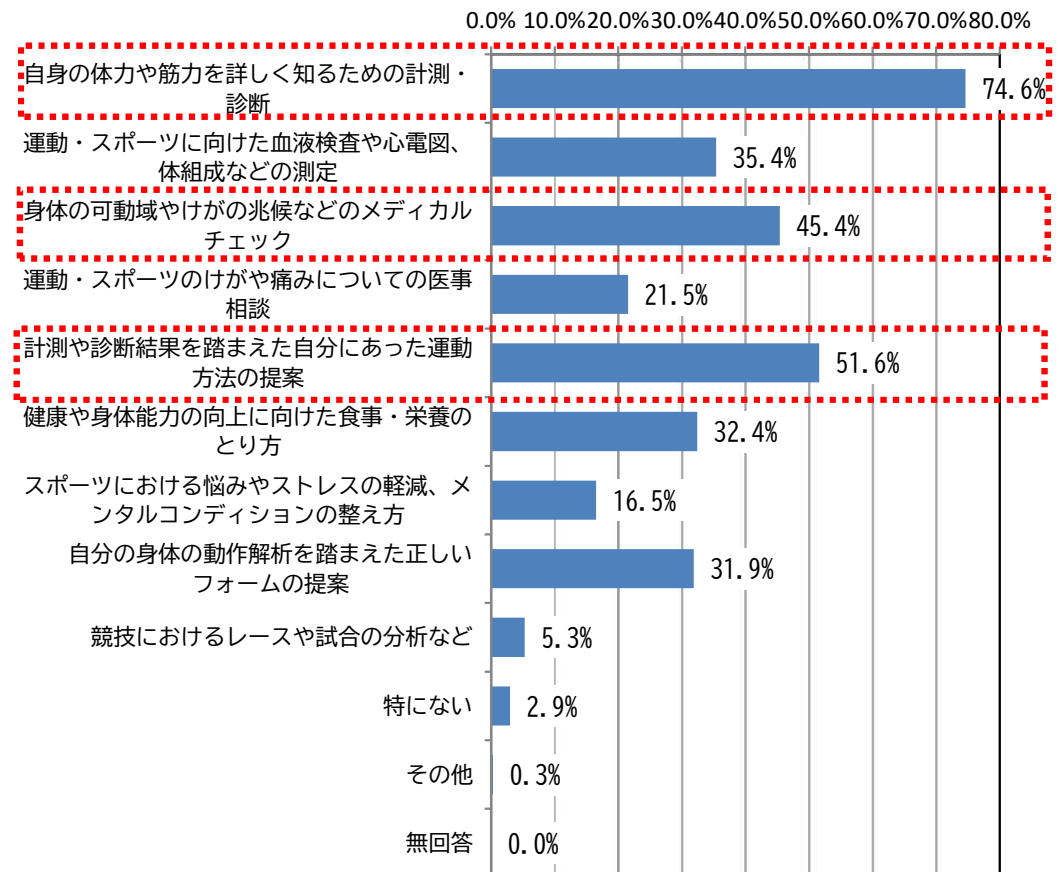
- ・8割以上の市民が過去1年間に体力測定を受けたことはなく、体力測定の機会は少ない
- ・3割以上の市民が運動・スポーツにおけるけがをきっかけに運動・スポーツが続けられなくなったまたは頻度が減っており、スポーツの継続にはけが予防が重要であることがわかる
- ・3割前後の市民が自分の年齢、身体、体力に適したトレーニング方法がわからないこと、運動・スポーツへのモチベーションが保てないこと、身体の違和感や痛みで運動・スポーツに支障があることに困っている

令和7年度 第2回 ネット・モニターアンケート結果(概要)②

Q10. あなたは、運動・スポーツを通した健康の維持・増進や、競技力の向上において、医学的・科学的な知見やデータを活かして取り組むことに興味や関心はありますか。（選択は1つ）



Q11. あなたが興味や関心があるスポーツ医・科学の取り組みは何ですか。（選択はいくつでも）



- ・ 医学的・科学的な知見やデータを活かして取り組むことに、約8割の市民が興味や関心がある
- ・ 興味や関心がある市民のうち、7割以上が「自身の体力や筋力を詳しく知るための計測・診断」5割前後の市民が「計測や診断結果を踏まえた自分にあった運動方法の提案」や「身体の可動域やけがの兆候などのメディカルチェック」への興味・関心が高い

他都市のスポーツ医・科学センターにおける主な取り組み

参考3

区 分	横浜市スポーツ医科学センター	新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター	京都府トレーニングセンター
運営体制	指定管理者 (公財)横浜市スポーツ協会	指定管理者 (公財)新潟県スポーツ協会	指定管理者 (公財)京都府立丹波自然運動公園協力会
立地	横浜市港北区小机町3302-5 (日産スタジアム内) JR新横浜駅より路線バス約5分	新潟市中央区清五郎67番地12 (デンカビッグスワンスタジアム内) JR新潟駅より路線バス約14分	京都府船井郡京丹波町曾根崩下代110-7 (京都府立丹波自然運動公園内) JR山陰本線 園部駅より路線バス約20分
延床面積	12,300㎡	6456.91㎡	5499.12㎡
諸室	■診療所 医事事務室、相談室(4室)、診察室(5室)、超音波室・心電図室、検体検査室、体力測定室、動作分析室、運動負荷試験室、X線撮影室・MRI室、理学療法室 ■運動施設等 プール、スイミル、更衣室、アリーナ(大・小①②)、トレーニングルーム	■診療所 診察室、生化学検査室、X線測定室、骨密度測定室、リハビリテーション室、運動負荷試験室、体力測定室 ■運動施設等 実技指導室、ホール(ヘルスチェック・フィットネス)、研修室(小①、小②、中、大)、栄養実習室、メンタル指導室、情報コーナー、温水プール(休止中)	■運動施設等 トレーニングルーム、パフォーマンスルーム、測定室、コンディショニングルーム、動作分析室、研修室 ■宿泊棟
メディカル機能	■外来診療 内科(3,194人)・整形外科(24,974人)・リハビリテーション科(48,269人) 週5日 午前・午後 ※内科は週4日 ■メディカルチェック ■運動療法	■外来診療 内科(154人)・整形外科(1,413人)・リハビリテーション科(1,034人) 内科は月2日・他2科は週3日(午後のみ) ■メディカルチェック ■運動療法	■外来診療なし スポーツ医事相談(月1日)(346人)
主な専門職等	医師(内・整形)、臨床検査技師、看護師、保健師、管理栄養士、放射線技師、理学療法士	医師(内・整形)、臨床検査技師、看護師、保健師、管理栄養士、放射線技師、理学療法士	医師(整形)、管理栄養士
フィットネスチェック機能	■体力測定(3,853人、内アスリート2,835人) ■トレーニング指導	■体力測定(546人、内アスリート468人) ■トレーニング指導	■体力測定(2,436人) ■トレーニング指導
その他サポート	■栄養指導 ■動作分析、フォーム撮影 ■指導者研修・講習会 ■講座・講演・教室・イベント等	■栄養指導、メンタルサポート ■動作分析 ■指導者研修・講習会 ■講座・講演・教室・イベント等	■栄養指導、メンタルサポート ■動作分析、映像サポート ■指導者研修・講習会(各種講座に含む) ■講座・講演・教室・イベント等
特徴	・豊富な医療人材による外来診療 ・生活習慣病等への運動療法のメディカルエクササイズコース(MEC)を実施 ・問診・メディカルチェック・体力測定等で健康状態を総合的に把握し、アドバイスを提供(SPS) ・競技場や公園等の近隣施設を活用した運動プログラムの実践 ・HPSCネットワーク連携機関	・生活習慣しっくり改善コースや健康サポートコースなど、健康増進を目的としたプログラムを提供 ・児童・生徒に対し、基本的な食事やトレーニング講習会・簡易測定とフィードバックをセットにしたケアコンディショニングサポートを実施 ・HPSCネットワーク連携機関	・専門業務が複数可能な常勤職員によるパッケージでのサポートを提供 ・ジュニアアスリート育成プロジェクト、小中学校運動能力等サポート事業など地域との連携事業を実施 ・宿泊施設を活用したサポート ・HPSCネットワーク連携機関

※名古屋市調べ

()内の人数は対応実績(横浜市は令和6年度、新潟県及び京都府は令和5年度)